しののめ



～校長室だより～　「東雲（しののめ）」

「夜明けの空が東方から徐々に明るんでゆく頃のこと。」東小も明るくなっていくことを願って･･･

第41号　校長　三浦久輝

学校ホームページに子どもの活躍が載っています。是非ご覧ください。

「ありがとう」は成長の源

「ありがとう。」

たった五文字の短い言葉ですが、この言葉には人を温かい気持ちにし、自分自身を成長させる大きな力があります。

私たちは日々、多くの人に支えられて生活しています。朝、家族が「いってらっしゃい」と送り出してくれること、地域の皆さんが登校を見守ってくださること、先生や友達と一緒に学び、遊べること。当たり前のように思える毎日の中には、実はたくさんの「誰かの思い」が込められています。

しかし、人は慣れてしまうと、その支えを当たり前だと感じてしまいます。当たり前になった瞬間、感謝の気持ちは少しずつ薄れてしまいます。だからこそ、ときどき立ち止まり、「今、自分は誰に支えられているのだろう」と考えてみることが大切なのです。

心理学の研究では、感謝の気持ちをもつ人ほど幸福感が高まり、人間関係も良好になり、新しいことにも前向きに挑戦できることが分かっています。感謝は単なる礼儀ではなく、自分の心を豊かにし、成長へと導いてくれる力なのです。

野球選手の中にも、感謝を大切にしている人がいます。試合で活躍した後、真っ先に支えてくれた家族や仲間、ファンへの感謝を口にする選手は少なくありません。どれほど優れた才能があっても、一人で成功することはできないことを知っているからです。成功する人ほど、「自分一人の力ではない」という謙虚な気持ちを忘れません。

子どもたちにも同じことが言えます。勉強ができるようになるのも、運動が上達するのも、自分の努力だけではありません。教えてくれる先生がいて、一緒に励まし合う友達がいて、毎日応援してくれる家族がいるからこそ、大きく成長することができます。そのことに気付いた子どもは、人の話を素直に聞き、失敗から学び、さらに大きく伸びていきます。

感謝の反対は、不満や文句ばかりを探す心かもしれません。同じ出来事でも、「やらされている」と考える人と、「挑戦する機会をもらった」と考える人では、その経験から得られるものは大きく違います。物事の見方を少し変え、「ありがたい」と思える心を育てることが、自分自身の可能性を広げる第一歩になります。



本校では、「ありがとう」があふれる学校を目指しています。友達に助けてもらったとき、教えてもらったとき、掃除を一緒に頑張ったとき、給食を作ってくださる方々や地域で見守ってくださる方々への感謝など、小さな「ありがとう」が学校中に広がれば、互いを認め合い、思いやりのある温かな学校になっていくことでしょう。

感謝は、何か特別なことがあったときだけに伝えるものではありません。毎日の生活の中で、小さな幸せや周りの支えに気付き、「ありがとう」と言葉にすることから始まります。

子どもたちには、「できるようになること」だけでなく、「感謝できる人」に育ってほしいと願っています。感謝の心は、人とのつながりを深め、自分をさらに成長させる源です。

今日も誰かの支えの中で過ごしていることを忘れず、「ありがとう」の一言を大切にできる子どもたち、そして学校でありたいと思います。

子どもたちの「いのち　かがやく」ステキな姿

人権学習・いじめ防止学習、授業参観ありがとうございました。

9月11日に人権学習、いじめ防止学習の学習参観を行いました。多くの保護者様にご参観いただきましてありがとうございました。人権学習・いじめ防止学習は三雲東小学校が大切にしている学習の一つです。子どもたち一人一人が生き生きと楽しく学べる「いのち　かがやく　東小」になるよう継続して取り組んでまいります。






4年生校外学習～滋賀県庁・衛生センターの見学～

9月8日に4年生が校外学習を行いました。見学したのは滋賀県庁と甲賀広域行政組合衛生センターです.

滋賀県庁では災害が発生した時の対策本部となる危機管理センターや知事室、滋賀県議会議場を見学させていただきました。普段は入ることができない場所に入らせていただいて子どもたちも興味津々でした。

衛生センターでは、自分たちの出したごみがどのように処理されるか学びました。施設を造ったり運用したりするのに多くのお金がかかること、ごみを処分するのに様々な苦労や工夫があることを学びました。

今回の校外学習を通して、子どもたちは、多くの人に役立つ仕事の大切さに気付くことができたと思います。個の学びが自分の生活に生かせることを願っています。




